

きのうきょう

『社会を変えるには』を著した

小熊英二氏

いま脱原発を訴えるデモが盛んで、震災後の脱原発デモは、以前のデモとは様子が進んでいます。例えば60年安保など異なり、1年半も続いていると、組織的動員がなっていない、悲壮な感じが希薄でむしろ楽んでいることなどを、日本は代議制民主主義をとっていますが、これが人びとを納得させる力を失いつつあります。多くの人が「自分の意見は反映されない」と思っている。代議士は「票を多く獲得した人」に過ぎなく、機能不全の代議制の代表だ。民衆が声をあげ、行動する習慣をいう感覚が持てなくなっています。



代議制民主主義が機能不全に陥ると、デモや集会は、民主主義の原動力である直接民主主義の風を吹き込むものとして求められます。これはいま、世界の各地で起きている現象です。私は本書で、戦後日本の社会運動の変遷を概観し、また古代ギリシャから民主主義の起源と歴史を振り返りました。そして現代がホ

スト工業化社会という、雇用も家族も教育も不安定化し、良くも悪くも「自由」になった時代であることを前提に、今後どうしたらいいかを提示しました。いま日本は変動期です。「支持政党なし」の浮動票の増大は、代議制の機能不全と、社会の不安定化の反映です。そこに震災と原発事故が起き、代議制に反映しきれない声が、人びとから上がり始めました。そのなかで、自分で行動する習慣が身についた人が増えれば、社会は変わります。

「社会を変えるには、あなたが変わる。あなたが変わると、あなたが変わる。あなたが動くこと。いまではそのの意味が、新しく活かしなおされる時代になってきつつあるのです。様々な世代の多くの人に読んでもらえれば幸いです(おおくま・えいじ 慶応義塾大学総合政策学教授) ●講談社現代新書・136 5円

『仕事の迷いにはすべて「論語」が答えてくれる』

北尾吉孝著



「人の己を知らざるを患えず、人を知らざることを患う」——実力を発揮できない歳月を長く過ごした孔子の言葉。それは、現代のビジネスマンが学ぶべき心構え。著者いわく、上司や同僚を批判するよりも、自己研鑽に努め、周囲の見る目を変えゆくことが大切だと。著名な実業家が孔子の言葉をもとに、仕事の基本姿勢や人生の指針を探る。●朝日新書・756円

『ビジュアル選書 大英博物館』

新人物往来社編



年間来館者600万人、収蔵点数800万を誇る大英博物館。そのおもな収蔵品を豊富な写真と解説文で紹介する。古代エジプトやギリシャの文物はしばらく措き、アジアでは、例えば敦煌第17窟から発見された『靈鷲山釈迦説法図』。法華経を説く場面を描かれた「聖徳太子像」。往時の大英帝国の国力に圧倒される。●新人物往来社・1890円

『幸福な田舎のつくりかた』

金丸弘美著



山形県鶴岡市では、高校生が伝統の食材を歴史も含めて調査し、料理の腕を競う「食の甲子園」を企画。愛媛県今治市の直売所は小さな農家を糾合し、120万人が訪れる名所へと発展。長野県飯田市では、10年間で1万人の他県の中学生が田植えに挑戦。地域の個性を自分たちで見いだし、活性化に成功した事例は興味深い。●学芸出版社・1890円

栄華を極めた中国など非西洋諸国に比べ、小さな後進国の集まりにすぎなかった西洋文明が、1500年から約500年にわたる世界の覇権を握ってこれたのはなぜか。ハーバード大学教授で、英国生まれの気鋭の歴史学者である著者は、「競争」「科学」「所有権」「医学」「消費社会」「労働倫理」の6つの要因をあげ、その教訓を独自に分析してみせる。

文明

ニーアル・ファーガソン著 仙名紀訳

栄枯盛衰から学ぶ西洋の覇権の真因



その結果、中国はガマやコロンブスに歴史の快挙を譲るとになる。明朝が落ちた原因については、「内向きになったことが致命的だった」と分析。中国は一国支配しつづめて、なせ今のようにならぬのか。著者は、入植者が「一所有権」の機会を与えた英国型システムで競争が生まれなかったが、小国が群雄割拠していったというわけだ。西洋では適度な「競争」のもと、さまざまな半問や発見が生まれ、風土病や熱帯病などを克服民地化していった欧州はその後、アフリカを植民地的に併呑するにもついでに、歴史を巨視的に俯瞰するにはもってこいの書物だ。(柳)

●勁草書房・3465円

読書

そしてそのことから、現

各1680円

『シューティング・スター』

ピーター・テンナル著



大財閥の一族の少女が誘拐された。交渉人をしているフランクが、一族では誘拐事件は、これが初めてではなかった。錯綜する一族内での思惑、互いの古傷……。少女は死体となって返され、フランクは一族の歴史の闇を破っていく。メルボルンを舞台にした、異色の長編探偵小説だ。●圭初幸恵訳/柏艸舎・1890円